

まちづくり⑦

近所のおばあちゃん おじいちゃんにあいにく

子どもとの交流で活躍する福岡・古賀市
えんがわくらぶ





「水と古新聞を貸してください」と三年一組の数名の男の子たちが、昼休みの時間に「えんがわくらぶ」にやってきた。午前中の授業でえんがわくらぶの面々と一緒に作った紙鉄砲で早速遊ぼうというのだ。えんがわくらぶの面々は、コンピュータを使っての年賀状づくりの講習で忙しかったが、子どもたちに古新聞を渡し、バケツを貸してあげた。その前日には、小学校の一角にある畑で五月に植えたさつまいもと一緒に収穫にしたが、その収穫を祝う「さつまいもパーティ」の招待状が子どもたちからえんがわくらぶに届いた。さらに、その前日の日曜日には、二十名ほどのメンバーが小学校で開かれたフェスタの一環で行われたバザーに参加し、豚汁を三百杯ほどを参加者に振る舞うとともに、ここでも、竹笛づくりなどの昔慣れ親しんだ玩具づくりを子どもたちやその親御さんたちに教えた。ここではむしろ若い親御さんたちの方が夢中になって取り組んでいたという。

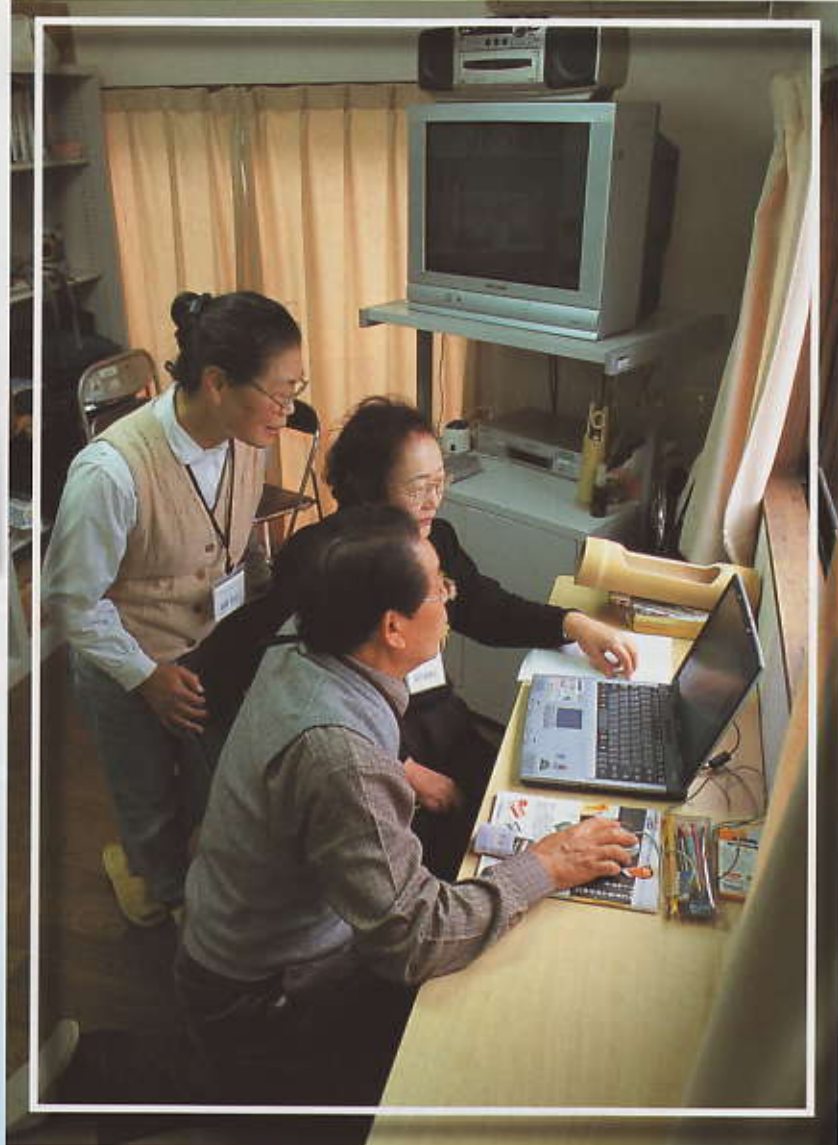
えんがわくらぶは、福岡県古賀市の古賀東小学校の敷地内に離れのように建っている二十坪ほどの家屋。正式の名称は、古賀市高齢者生きがいづくり支援センターという。小学校の用務員宿舎が不要となったのを機に、この宿舎を改装し、高齢者活動の拠点として設けられたもの。同くらぶの代表世話人を務める山川千寿さんがアイデアを市に提供し、市が介護予防の観点から事業化、用務員宿舎の改造費などを予算化し、平成十三年度から立ち上げた。かつてはこの家にもあり、家族の団らんの場であり、地



域の人たちとの茶を呑みながらの交流の場であった縁側をイメージして名づけられた。

えんがわくらぶの目的は元気な高齢者づくり。古賀市自体の高齢化率は、十三%台とまだ高くはないが、今後急速に高齢化率が伸びていくことに対処するため、第一線をリタイアしたシニアたちが元気で、健康で、社会活動に参加できるようにすることめざして開設された。現在、一期生七名が月曜日に、二期生十四名が火曜日と木曜日に、それに加え、ボランティア十名がそれぞれ集い、ダーツ講座のような趣味的なものから、パソコン技術の習得、園芸づくり、広報紙づくりなどにいそしむとともに、仲間づくりに励んでいる。そして、メンバーには、ここで得たものを活かして、地域で子育て支援や三世代交流などの活動のなかでリーダー的な役割を果たすことが期待されている。事実、一期生の中には、今年度から元気な人づくりのための拠点施設として開設された「いきいきセンター・ゆい」でのサポーター役を務める人も出てきているという。

しかし、えんがわくらぶでもっとも注目すべきは子どもたちとの交流であろう。冒頭に紹介したように、玩具づくりや野菜づくりのほかに、そば打ち体験、戦争体験の話などの総合的な学習の先生役をするだけでなく、昼休みや放課後に子どもたちがえんがわくらぶを訪れ、パソコンで遊んだり、高齢者との会話を楽しんだりしと普段からの付き合いがうまれている。



もっとも、最初から子どもたちとの関係がうまくいったわけではないと山川さんは述懐する。「遊びにおいで」と子どもたちに声をかけてもなかなか来てくれない。そこで、山下秀和校長に相談をもちかけ、給食と一緒に食べる「給食交流」や野菜づくりの指導で、教室に向向く活動を積極的に仕組んでいった。その結果、顔馴染になった子どもたちがえんがわくらぶに来るようになったという。そして、えんがわくらぶが学校の敷地内にありながらも独立した家屋となっていることも良かったという。子どもたちにとって近所のおばあちゃんやおじいちゃんの家に行くようで、「ほどこよい距離感」が子どもたちに学校にいるときとは違った気持ちを与えているという。

実を言えば、えんがわくらぶには、また「縁側」はない。山川さんたちは、第二期生の卒業製作に縁側を作ろうかとも考えているという。

できあがった縁側でメンバーと学校帰りに寄り道をした子どもたちが、日溜りの中であやとりをしている、そんな姿を想像しながら、えんがわくらぶをあとにした。

■連絡先 古賀市高齢者生きがいづくり支援センター
古賀市久保七三九一七 古賀東小学校内
TEL/FAX 〇九二一九四三一八九二
<http://www.sla.or.jp/engawa/>
E-mail: adm15460@syd.odn.ne.jp